

書評

〔評者〕
松村真司
松村医院院長



ジェネラリストのための 内科外来マニュアル

金城光代, 金城紀与史, 岸田直樹 編

● A5 変型 頁 576 2013 年
定価 5,460 円(本体 5,200 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-01784-8] 医学書院刊

一説によると、医師としての人生で、患者との出会いの 95% は外来において行われるとのことである。その割には、卒前・卒後教育における外来診療の位置付けは大きくはない。外来教育といえど多くの場合救急外来での教育を指し、一般外来での教育は始まったばかりである。現在でも、一般外来を担当する医師たちは、手さぐりで学んでいくことが多いのであろう。本書はそのような医師を対象に書かれた、優れた内科外来マニュアルである。

外来診療に熟達するために会得すべきもの、それは急性疾患の診断アプローチに始まり、慢性疾患のマネジメント、予防とスクリーニング・健康増進、そして複雑な問題を時間内で適切な解決に導く交渉技術に至るまで、カバーすべき分野は広大である。とりわけ、総合内科外来においては、これらの基本知識と、適切な戦略スキルを、ありふれた健康問題全般にわたって身につけることが求められるのであるが、これは簡単のようにみえて難しい。特にジェネラリストは、これらの問題に対し、いかに幅広く、いかに深く、そしていかに最新の知識で対処し続けられるかが、その診療の質を決めるものになるのである。

本書では、このように広大な領域について簡潔に記

載するという試みが行われている。冒頭にジェネラリストのための診断アプローチ、外来診療のコツが記載され、一般外来で出会う健康問題全般への対応法が記載されている。そしてその後、特に問題となることの多い、外来における抗菌薬の使い方が記され、引き続き初診・継続外来でよく出会う健康問題のマネジメント方法が項目ごとにまとめられている。各項目は多くて 10 ページ前後であり、外来の傍ら、短時間で目を通すにはちょうどよいボリュームである。また成人のワクチン、妊婦と内科疾患など、外来でしばしば頭を悩ませる問題も取り上げられている。随所に挿入された Physician's memo も臨床で役立つものである。外来を担当し始めた初学者のみならず、どのような立場の医師でも、本書を活用することで、明日からの外来診療の幅は広がり、その深みは増すことであろう。

時間の制約のなか、きわめて幅広い問題を扱う一般外来において、常に適切な診療を続けるのは困難である。本書を活用しながら、医師としての残りの人生のほとんどを占める外来での患者との出会いを、より深く、より意義深いものにしていくことができればと、私も願っている。